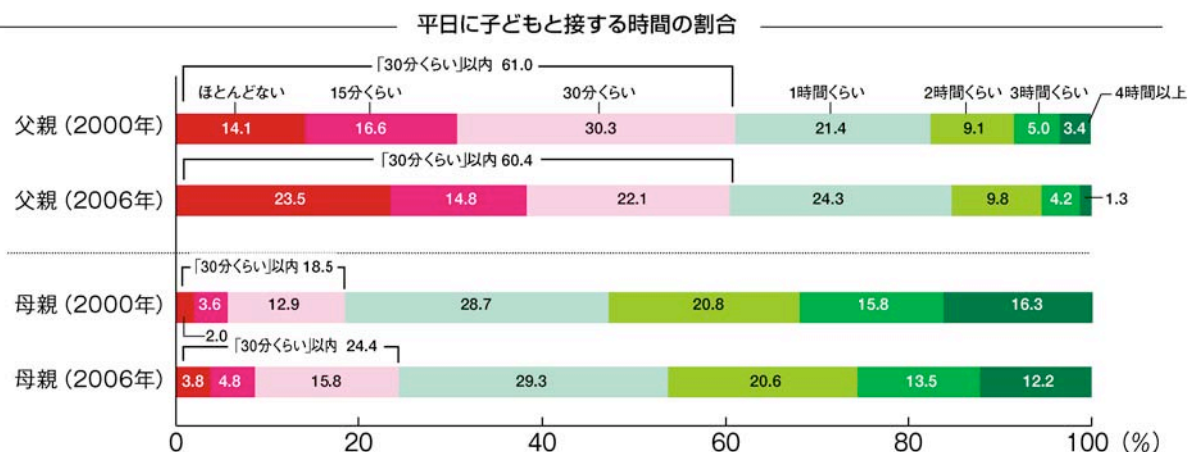


「家族のつながり」

家族と食事、団らん、余暇など様々な生活や行動を共にする機会が減る動きが見られます。家族とのふれ合いは、愛情や社会規範意識などを身に付け、成長していくために必要であり、家族のつながりは、それぞれの人にとって特別の存在です。

父親の4人に1人が平日ほとんど子どもと接しない

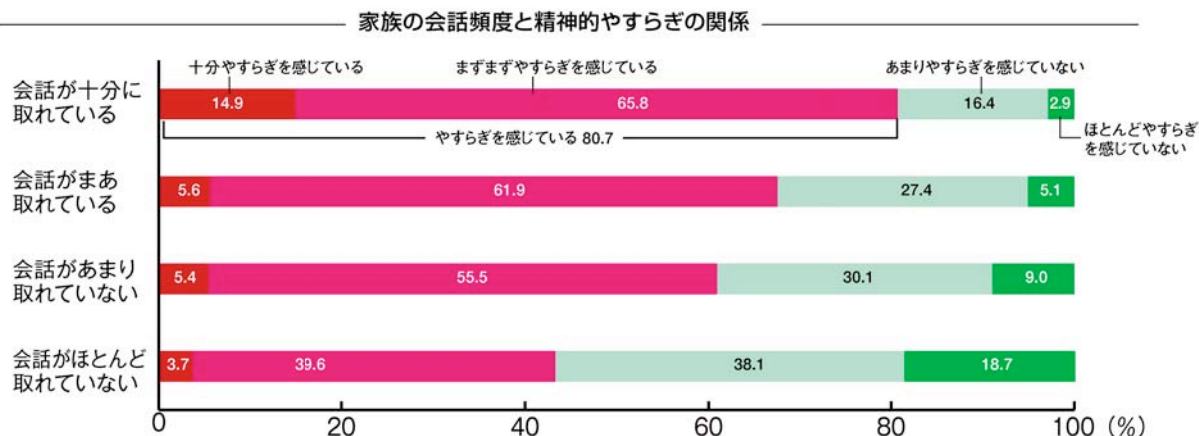
小学校4年生から中学校3年生までの子どもを持つ親が平日に子どもと接する時間を尋ねたところ、2000年、2006年ともに、約6割の父親が「30分くらい」以内と回答しています。特に「ほとんどない」と回答する人の割合は、2000年の14.1%から2006年の23.5%へと大幅に増加しています。



(備考) 総務庁「青少年の生活と意識に関する基本調査(第2回)」(2000年)、内閣府「低年齢少年の生活と意識に関する調査」(2006年)により特別集計

家族とのつながりがある人ほど精神的やすらぎが得られる

「家族との会話が十分に取れている」と回答した人の80.7%が精神的やすらぎを感じ、「家族との会話がほとんど取れていない」と回答した人の18.7%が精神的やすらぎを感じていません。家族との会話が、いかに重要であるかが分かります。



(備考)内閣府「国民生活選好度調査」(2007年)により特別集計